

世界遺産 トピック

石造物碑文から知る崎津の歴史

そのうちの1基には、「福建 長楽県孝武劉公之墓 大清道光十年季夏寿昌船立 道光十三年春正月永泰船建碑重修」と記されています。これは「福建省長楽県出身の劉さんのお墓」ということです。「道光」は中国の元号で、道光10年は西暦で1830年、同13年は1833年。二つの元号と船の名前が書いてある

江戸時代の崎津集落は潜伏キリシタンの集落でしたが、同時に旅人や商人が行きかう港として、常に活気に溢れていました。長崎港へ向かう海外船が往来する東シナ海に面し、嵐からの避難に最適な場所であるため、中国船や琉球船などの漂着が多く、国際的な交流の場でもあったことが注目されます。

江戸時代、中国人との交流はほぼ長崎に限られていたため、長崎以外での中国人との接触はとも珍しいものでした。そのような環境の中、崎津には今も中国人との交流を示す物証が残っています。それが、向江地区に残る「唐人墓」。共同墓地近くの森の中にひっそりとたたずむ5基の墓石には、それぞれ葬られた中国人の姓名や建立年号などを確認することができます。

【その2 向江地区の「唐人墓」】

江戸時代の崎津集落は潜伏キリシタンの集落でしたが、同時に旅人や商人が行きかう港として、常に活気に溢れていました。長崎港へ向かう海外船が往来する東シナ海に面し、嵐からの避難に最適な場所であるため、中国船や琉球船などの漂着が多く、国際的な交流の場でもあったことが注目されます。

ので、劉さんは道光10年の航海で亡くなり、漂着した崎津に埋葬された。しかし、その時は粗末な墓石しか作れず、3年後に来航した船が改めて墓石を修築した、という状況を示しているものと推測されます。

崎津に残る唐人墓から、知られざる海外交流の歴史に触れることができます。教会の対岸にある向江地区の唐人墓に足をのばし、潜伏キリシタン以外の崎津の歴史を体感してみるのもいいかもしれません。



▲唐人墓

◀福建劉公墓の碑文

鳥峠 (御所浦町)



▲鳥峠からの眺望



◀チェーンソーアート

天草 見どころ図鑑

鳥峠は標高442mと御所浦町で最高峰の山です。山頂の展望台は360度視界が開けており、鹿児島、宮崎、長崎、熊本 の4県を一望でき、多島海の美しい景色を望める絶好のスポットとなっています。

この絶景を楽しむトレッキングやパノラマウォークなども開催されています。

★見どころポイント

トレッキングコースの道中にはイーグルなど4体のチェーンソーアートが配置されています。



子どもたちを見て「教室を通して自分で作る喜びを伝えられるのは嬉しい。自分で作った凧がぐんと空に高く昇る姿は、大人も子どもも夢中になれる」と吉森さんは活動の魅力を語ります。

昨年は、地域の賑わいになればと、稲刈りに



▲親子で凧作り教室



▲畑に植えられたコスモス

高さ1・5mほどの大きなバラモン凧に描かれた勇壮な武者絵。この凧は、「天草凧の会」に所属し、絵付けや制作を担当する吉森安隆さんが描いたものだ。

子どものころから絵を描くことが得意だった吉森さん。参加した文化交流館の講座で凧作りと出会い、同会に入会し10年以上活動している。

約40人が所属する同会は、文化交流館で開催する講座のほか、保育園や小学校で昔遊びの講師、凧揚げのイベントを行うなど、天草の伝統工芸であるバラモン凧を多くの人に楽しんでもほしいと活動している。

インターネットやテレビゲームが普及した昨今、子どもたちは昔遊びをする機会が減り、凧を揚げる場所も少なくなりました。しかし、凧作り教室で熱心に凧作りに取り組み子どもたちを見て「教室を通して自分で作る喜びを伝えられるのは嬉しい。自分で作った凧がぐんと空に高く昇る姿は、大人も子どもも夢中になれる」と吉森さんは活動の魅力を語ります。

☎27-5665

凧作り教室などの問い合わせは
天草凧の会（天草文化交流館内）

を終えた自分の畑にコスモスとヒマワリを植えた。小学校に通学する子どもたちや近くの保育園児が散歩に来るなど喜ばれたという。

吉森さんの取り組みを知った友人が描いたアニメキャラクターの看板を設置したところ、花と一緒に写真を撮って楽しむ人が増え、「今度は畑の中で写真を撮ってもらおうなど、もっと楽しんでもらえるようにしたい」と構想を練っている。

「自分が楽しんでやっていることで、地域の人に喜んでもらえればこんなに嬉しいことはない」と謙虚に話す吉森さんの思いは、地域に温かな気持ちを広げている。



よしもり やすたか
吉森 安隆 さん (倉岳町)

自分が好きなことで
皆さんに喜んでもらえるなら